

情報モラルに関わる題材を扱う特別な教科道徳の研究

代表研究者

横山隆光

岐阜女子大学文化創造学部 准教授

1 はじめに

道徳教育の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てること」である。情報モラル教育の目的は、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を養うことであり、道徳教育との関係が深い。学習指導要領特別の教科道徳(以下、道徳科)に情報モラルに関する指導を充実することが明示され、学校教育における道徳教育は道徳科を要として行われる。小中学校の道徳科で情報モラルに関する題材を扱った場合、スマホ等の情報機器を操作したことがない子供は、資料に描写された情報機器の操作状況や及ぼす影響等が十分に理解できないことが予想される。理解が不十分な場合、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、思いや考えをまとめることができない可能性がある。理解を助けるために、道徳科でネット依存やSNS等の危険性や危険回避の学習を行うことは道徳科の目標にはそぐわない。そこで、道徳科で情報社会の倫理、法の理解と遵守といった心の領域の題材を扱う前に、総合的な学習の時間等で情報モラルの授業を実施してICT 機器操作や危険回避等の知恵の領域の学習を行うことが考えられる。小中学校の各学年の年間指導計画に位置付けられた道徳科と情報モラルの授業で扱う内容の実施時期に配慮する必要があるが、情報モラル指導カリキュラムチェックリスト(2011)の指導事項には示されていない。そこで、情報モラルに関する題材を扱った道徳の実践事例を収集して、ICT 機器操作や危険回避等の「知恵の領域」の学習の必要性、理解が不十分な子供の実態等を調べることにした。

2 背景と実施内容

道徳教育には、「知識重視型、行動・習慣重視型、心情重視型の3つの類型がある」と村井(1990)は述べている。知識重視型には、道徳規範を教え込む規範重視、地理歴史などの知識を指導する中で道徳的なセンスを身に付ける事実重視、ルールを教えて守らせるルール重視がある。行動・習慣重視型は、子供に望ましい行動をとり続けさせ習慣化することで道徳的な行為が定着するというものである。心情重視型は葛藤場面を設定して心情に訴えるというもので、モラルジレンマを扱った授業が多くの学校で行われている。村井は「道徳的判断に必要な思考の枠組みとして、規範に関する原則の知識、状況の知識、合理的判断の知識が必要である」としている。

内閣府調査(2016)によると、小学生では、ゲーム機などのICT 機器の利用率は86.2%、スマートフォン利用率は23.7%であり、ICT 機器やスマートフォンを利用しない小学生が存在する。筆者らの調査では、道徳科でスマホやSNSなどの操作を伴う題材を扱った場合、スマホやSNSなどの操作経験がなく、情報社会で安全に生活するための危険回避の方法の理解やセキュリティの知識・技術を持たない場合、題材の理解が不十分で、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめることができない子供が現れることが分かっている。村井の規範に関する原則の知識、状況の知識、合理的判断の知識がそろっていない状態だと考えられる。情報モラルに関する題材を扱った道徳科の授業では、玉田(2004)の「道徳的規範知識の低い子供」に加えて、スマホなどの操作経験・危険回避の方法の理解・セキュリティの知識・技術を持たない子供がいることになる。玉田は、情報技術の知識を獲得する態度を身につけさせることが重要で、「情報技術の複雑化により、情報技術の何が関係するのか、一般モラルで解決がつくのかという切り分けが困難な状況になっている」と述べている。これらの子どもは、授業のねらいに深く関わる中心的な発問により一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、思いや考えをまとめたり、よさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐことが難しい。

今回の調査では、実証授業を実施し、情報モラルに関する題材を扱った道徳科の授業の問題点を明らかにすることにした。今回収集したものは、情報モラルの題材を扱う道徳の年間指導計画、内容項目に係る行動調査と意識調査、情報モラルに関する題材を扱う特別な教科道徳の指導案、動画教材・読み物教材、関連す

る情報モラルの授業の年間指導計画である。27 事例の実証授業を実施し、ビデオで記録して行動と発話記録を作成し、行動と意識調査の分析（因子分析、授業前後の比較、項目間の相関等）を行った。授業後、ルーブリック（ワークシート等）を収集し、授業者と観察者からの聞き取りをもとに授業研究会を行った。実証授業の内容項目として「正直、誠実」「節度、節制」「親切、思いやり」「家族愛」の事例を収集した。対象学年は、小学校中学年・高学年、中学校である。

筆者らの調査では、情報モラルに関する題材には、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材と必要とされない教材があることが分かっている。メールや SNS のやり取りによるトラブル、ネット依存によるトラブルなどを扱う教材は、子供がネット上に写真や個人情報を書き込むことの危険性等を知った上で、授業で情報モラルに関する題材を扱った方が、状況や心情等を理解しやすい教材である。個人情報をネット上で公開することの危険性、ネット依存に陥ることで生じる様々なトラブル等の知識がない場合、登場人物の行った行動の意味が分からなかったり、心情が読み取れなかったりすることがある。これらの教材は、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材に分類される。

これに対して、今回収集した事例で用いた教材「父の手紙」では、ICT 機器は主人公がお父さんに感謝の気持ちを伝えたくてメールした場面で登場するだけで、ケータイがトラブルの原因となっているわけではなく、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材にあたる。情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材では、父への伝言をメールで送るなどの行為を理解しやすく、今回の実証授業のビデオ記録やワークシートの分析でも全員が状況を理解できていたことが明らかになっている。全員が理解できていたため、実証授業では、資料の範読後、資料に描かれた状況から主人公の気持ちを考え、一人一人が「家族愛」について考え、自己をみつめる展開となった。

本研究では、収集した事例を、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材と必要とされない教材を用いた事例に分類し、事前に情報モラルの授業を実施した事例としない事例とを比較した。また、今回新たに実施・収集した「家族愛」を扱った実証授業の分析の一部を次に報告する。

3 結果

3-1 情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材を用いた授業

(1) 事前に情報モラルの授業を実施しない中学校の事例

収集した事例の中から、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材を用いて、事前に情報モラルの授業を実施しない事例について分析した。実証授業の中学生(有効回答数 76 名)の内訳を表 1 に、トラブルの経験を表 2 に、インターネット等の利用実態を表 3 に示す。トラブルの経験ではゲームのトラブルが多い。表 4 に示すとおり、「ゲームを長くやる」と「動画サイトなどを長く見る」には中程度の相関がみられた。

表 1 中学生の内訳

1年	61人	80.3%	男子	41人	53.9%
2年	9人	11.8%	女子	35人	46.1%
3年	6人	7.9%			

表 2 トラブルの経験 (%)

6	ゲームを長くやってしまった	63%
7	LINEなどを長くやってしまった	30%
8	動画サイトなどを長く見てしまった	57%
9	ゲームをする時間を短くしたいが、減らない	22%
10	LINEなどをする時間を短くしたいが、減らない	9%

表 3 インターネット等の利用実態(人)

	インターネット接続サービスを利用している	公衆無線 LAN・WiFi を利用してインターネットサービスを利用している	インターネットサービスを利用していない	ない
ノートPCやタブレット型端末	41(人)	13	3	19
携帯電話やスマートフォン	22	20	5	29
携帯型ゲーム機・家庭用ゲーム機	21	23	15	17
携帯型音楽プレイヤー	17	8	12	39

表 4 相関分析

	6	7	8	9
6 ゲームを長くやってしまった	-			
7 LINEなどを長くやってしまった	.206	-		
8 動画サイトなどを長く見てしまった	.487**	.346**	-	
9 ゲームをする時間を短くしたいが、減らない	.217	.277*	.208	-
10 LINEなどをする時間を短くしたいが、減らない	.149	.484**	.187	.471**

「4:思う 3:少し思う 2:あまり思わない 1:思わない」の4件法 (** $p < .01$ * $p < .05$)

「ゲームの時間が減らない」と「LINEの時間が減らない」にも中程度の相関がみられた。ゲームを長くやってしまう子供は動画サイト等も長く見てしまうことがわかる。そこで、道徳科の授業でネットゲーム(ゲーム依存)を取り上げた。事前にゲーム依存を扱う情報モラルの授業は実施しなかった。

授業では「教材①ネット依存/ネットゲームに夢中になると…」の導入動画を用いた。授業はVTRで記録し、発話を分析した。授業で用いたワークシートは授業後回収し分析した。導入での発話の一部を表5に示す。授業者は、発話から子供が本時の主題に関わる問題意識をもつことができていると判断していた。VTRの分析から、全員が動画に集中し、視聴後ワークシートに感想を書く行動が確認できた。終末の発話の一部を表6に示す。本時のねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することの難しさを確認する発話が見られた。この後に続く授業者の説話を真剣に聞く行動が確認できた。このとき授業者は、子供が道徳的価値を自分のこととして捉え、道徳的価値を自分の生活の中に生かしているように判断していた。

表5 動画視聴後の発話(一部)

(子供)	ひろしくん(主人公)がかわいそうだなと思いました。なんでかかっていうと、ゲームを理由にやめれずに、友達に距離を置かれて、学校がつまんないんじゃないかなって思いました。
S1	
S2	ゲームはすごい楽しいものだし、自分も時々やってるけど、やり過ぎると、この人みたいに大変なことになって寝不足になるし、友達関係も崩れていくから、すごい、依存することは恐ろしいことだなと思いました。
S3	ビデオを見て、ひろしくんはゲームばかりやっていて、2時とかまでやって、それで勉強もやらずに学校でも友達に距離を置かれてかわいそうだなと思いました。
S4	動画を見て、最初の方は、ひろしくんは、しっかり時間を守ってやっていたけれど、後の方は時間を守らずやってしまったので、学校生活にも影響が出てしまったので、とても危険なことだな、と思いました。

表6 終末の発話(一部)

(子供)	…自分で決めた時間を守れなかったっていうのが問題だったので、時間を決めても守れない、こんなときは、お母さんにゲームを預かってもらうことが大切で、自分も親に協力してもらう…
S25	
S26	…家庭学習の時間が減って、学力が落ちてしまい、寝る時刻も遅くなってしまった。…自分がやるうと思っただけは、まずひとつめは、インターネットの時間を決めてやることと、…
S27	…僕もゲームやインターネットを、あと少しだけ、と長くやってしまったことがある、その結果、勉強するのが遅れてしまった、そこで、ゲームをする前に勉強を先にすべて終わらせるということを実行したい。
S28	…インターネットをやり過ぎて、テストの点が落ちてしまった、ということで、インターネットの時間を少なくして、学習の時間を増やすことです。僕は、勉強を1時間やったら、ゲームも1時間だけ、という決まりを作っていました。

発話とVTRの分析から、全員に道徳科の授業が成立していたと思われた。しかし、ワークシートの分析から、一部の子供には成立していなかったことが明らかになった。ワークシートの記述には、「勉強を先に終わらせてから、ゲームをする」「1時間勉強したら、1時間ゲームする」等、ゲームとの付き合い方について記述する子供がいた。多くの子供が勉強を先にしてゲーム等の遊びは後にしたいと書いていた。一方で、ゲームをやっていない子供からは、ゲームに熱中する理由が分からない、どうして抜け出せなくなってしまうのかわからないといった意見も寄せられた。ゲームにのめりこませるネットゲームの仕組み、トラブル回避の方法などの知識をあらかじめ持っていれば、これらの疑問が解消できると思われた。中心的な教材の理解が十分ではないことにより、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめることが十分ではない子供は1割(7人)で、中学校においても道徳科の前に情報モラルの授業で知恵を磨く領域の学習を行う必要があることが明らかになった。

また、「毎日ゲームをやって習慣化しており、やめられない」といった記述がみられ、自分の力ではゲームをやめることができない状態の子供が3名いることが分かった。同時に実施したネット依存のスクリーニングテストで、これらの子供は潜在的リスク使用者に分類された。学校、保護者、医療機関が連携して取り組む必要があるのかを判断する必要があることが分かった。

表7のゲームと仲間関係のクロス表に示すように、ネットゲームをする子供では、「友達が悪いことをしたときに注意する」と回答した子供は全体の53%、「しない」は22%であった。ゲームをしない子供では、「注意する」は5%、「しない」は20%であった。ゲームをする子供では、「仲間はずれにされないように話を合わせる」と回答した子供は全体の34%、「しない」は41%であった。ゲームをしない子供では、「話を合わせる」は22%、「合わせない」は3%であった。ゲームをする子供としない子供の仲間関係に差があることを示唆していると思われる。

表7 ゲームと仲間関係のクロス表

		友達が悪いことをしたときに注意する		仲間はずれにされないように話を合わせる	
		しない	する	しない	する
ゲーム	する	22%	53%	41%	34%
	しない	20%	5%	3%	22%

(2) 事前に情報モラルの授業を実施しない小学校の事例

小学校5～6年生を対象とした4事例では、事前に情報モラルの授業をせず、道徳科で情報モラルに関する題材を扱った。このうち、2事例はゲーム依存を扱った授業であり、9割の子供がゲームの経験があり、全員が親に隠れてゲームをする主人公の状況や気持ちが理解できていた。しかし、ネットゲームでの書き込みを扱っていたため、ネットゲームの経験や書き込みの経験がない子供が7割おり、状況が理解できない子供が現れた。理解できない子供の割合は多いクラスでは2割であった。2事例はSNSを扱った授業であり、7割がSNSへの書き込みの経験がなく、特に男子でSNSの依存に陥る過程が理解できなかつたり、トラブルに巻き込まれた主人公の気持ちが分からなかつたりする子供が現れた。自己を見つめる段階においても本時の目標の「思いやり」につながる発言やワークシートへの書き込みができない子供が現れた。小学校では、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材の場合、道徳科の前に情報モラルの授業で知恵を磨く領域の学習を行う必要があることが明らかになった。

(3) 事前に情報モラルの授業を実施した小学校の事例

道徳科の授業前に情報モラルの授業を実施した9事例では、あらかじめゲーム依存、掲示板への書き込みやSNSの危険性と対処等の知識を得ており、いずれも道徳科の授業の途中で教師がICT機器操作等の補足説明を行う必要はなかった。子供の発話から、前時の情報モラルの学習内容とつないだ発言が現れ、子供の意識が連続することが分かった。発話やワークシートの記述の分析から、事前に情報モラルの授業と道徳科の授業とで、子供の意識が連続すると思われた。授業を行った担任は、子供が主人公の状況や心情を理解して考え、発表できていたと判断していた。

題材「教材①ネット依存/ネットゲームに夢中になると…」を扱った6年生(有効回答数35人)の本時の道徳的価値に係る意識調査結果を表8に示す。本時の目標である節度ある生活に関して質問紙法で授業前後に調べた結果である。⑩⑫⑬が授業後、有意に高くなっており、道徳的実践意欲が高くなっていることが示唆された。

因子分析の結果、因子1：公共の場での生活態度、因子2：学校での生活態度、因子3：家での生活態度が取り出された。題材がゲームを扱っており、家での生活に関する内容であったためと思われた。⑩⑫⑬は、「因子3：家での生活態度」に関するものであり、本時の目標が達成できたものと思われた。担任の授業後の評価とも一致した。

表8 節度ある生活態度の授業前後の平均値のt検定

	前	後	P
イ. やらうと思いますか.			
① 家で、朝は自分で起きることができる	3.44	3.40	n.s.
② 家で、朝食をきちんと食べる	3.78	3.83	n.s.
③ いつでも、あいさつは自分から進んでする	3.67	3.63	n.s.
④ いつでも、横断歩道は手を上げてわたる	3.17	3.06	n.s.
⑤ 学校で、先生や友達の話をきちんと聞く	3.61	3.69	n.s.
⑥ 学校で、机やロッカーをすすんで整とんする	3.50	3.57	n.s.
⑦ 学校で、友だちに注意されたら、すなおに聞く	3.61	3.69	n.s.
⑧ 学校で、係の仕事を自分からすすんでやる	3.58	3.59	n.s.
⑨ 家で、楽しいことがあってもがまんして宿題を先にやる	3.19	3.37	n.s.
⑩ 家で、明日も元気に生活したいので、早くねる	3.25	< 3.50	*
⑪ ゲームに夢中になっても、時間になったらゲームを終われますか	3.25	3.32	n.s.
⑫ 楽しいテレビを見ていても、ねる時間を守れていますか	3.19	< 3.54	*
⑬ 健康ですぐすために、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていますか	3.42	< 3.66	*
⑭ おうちの人に言われなくても、宿題ができますか	3.53	3.60	n.s.
⑮ 忘れ物が無いよう、夜のうちに準備していますか	3.56	3.57	n.s.

「4:思う 3:少し思う 2:あまり思わない 1:思わない」の4件法

(** P<.01 * P<.05)

事前に情報モラルの授業を実施した小学校4年(有効回答数:30名)の実証授業では、子供の発話やワークシートの記述の分析から、情報モラルの授業と道徳科の授業とで、子供の意識が連続しており、授業者は、子供が主人公の状況や心情を理解して考え、発表できていたと判断していた。実証授業は内容項目「正直誠実・明朗」を扱っており、道徳科の授業前に情報モラルの授業を実施した。3回の意識調査を実施しており、情報モラル授業前に調査1、道徳科の授業前に調査2、道徳科の授業後に調査3を実施した。意識調査の質問⑨～⑳は、道徳の内容項目「正直誠実・明朗」に関する質問である。調査1・調査2・調査3の平均値の比較を表7に示す。調査1と調査2では、どの質問も有意な差は見られなかった。情報モラルの授業では著

作権についての理解を深める授業であり、心を耕す授業展開とはなっていない。そのため、心の領域である「正直誠実・明朗」に係る質問の平均値は変化しないものと思われた。調査2と調査3では、「⑩うそがばれなくても、正直に話す」は、調査3が調査2より有意に高くなっていた。道徳の時間で内容項目「正直誠実・明朗」を扱ったことで、情報モラルの授業では変わらなかった質問⑩の正直に話そうとする構えが高くなったものと思われる。なお、調査2と調査3で有意な差がみられない項目が多いが、もともと平均値が5.00や1.00に近いものでは差が生じないためだと思われる。

質問⑳は、自己肯定意識尺度の自己実現態度を調べるために設けた。自己意識、自己概念の問題については、多くの構成概念が出されているが、自己肯定意識を下位概念として位置づけている。結果は、4.43~4.67と高く、有意な差は見られなかった。実証授業学級の子供は心理学的健康の持ち主であり、質問の回答結果は適切であることを示した。

道徳科の授業の前に情報モラルの授業を実施した場合、情報モラルの授業では知識・理解が高まり、道徳の時間では心の領域である構えに影響を及ぼしていることが分かった。特に、情報モラルの授業後、1週間以内に道徳科の授業を実施すると、道徳科の授業中に事前に行った情報モラルの授業に関する発話が見られた。情報モラルの授業と道徳科の授業で子供の意識が連続しており、情報モラルの授業で得た知識で道徳科の資料を理解し、一人ひとりの子供に道徳科の授業が成立するものと思われた。

表7 道徳の内容項目「正直誠実・明朗」に関する質問の平均値の比較（t検定と標準偏差）

	調査1	調査2	P	調査2	調査3	P
⑨ いつも正直に話す	3.96 (1.15)	4.00 (1.21)	n.s.	4.00 (1.21)	4.03 (1.29)	n.s.
⑩ うそがばれなくても、正直に話す	4.00 (1.38)	4.14 (1.26)	n.s.	4.14 (1.26)	< 4.50 (0.88)	*
⑪ いつも正直でいることは、大切なことだ	4.53 (1.07)	4.57 (0.99)	n.s.	4.57 (0.99)	4.71 (0.76)	n.s.
⑫ うそをついたことがある	4.56 (0.81)	4.50 (0.92)	n.s.	4.50 (0.92)	4.53 (1.10)	n.s.
⑬ うそをつく、いやな気持ちができる	4.56 (0.81)	4.50 (0.92)	n.s.	4.35 (0.98)	4.64 (0.91)	n.s.
⑭ うそをつく、こわい	4.50 (0.90)	4.28 (1.15)	n.s.	4.28 (1.15)	4.50 (1.13)	n.s.
⑮ うそをつく、不安になる	4.36 (1.06)	4.39 (0.95)	n.s.	4.39 (0.95)	4.64 (0.91)	n.s.
⑯ うそをつく、おこられる	4.03 (1.24)	3.92 (1.24)	n.s.	3.92 (1.24)	4.39 (0.87)	n.s.
⑰ うそをついても、ばれなければいい	1.53 (0.97)	1.60 (1.10)	n.s.	1.60 (1.10)	1.60 (1.10)	n.s.
⑱ うそをついても、おこられなければいい	1.76 (1.22)	1.50 (0.88)	n.s.	1.50 (0.88)	< 2.03 (1.37)	*
⑲ 約束は、きちんと守る	4.70 (0.83)	4.71 (0.85)	n.s.	4.71 (0.85)	4.75 (0.51)	n.s.
⑳ しょう来のゆめや希望をもっている	4.43 (1.04)	4.67 (0.94)	n.s.	4.67 (0.94)	4.64 (0.98)	n.s.

「4:思う 3:少し思う 3:どちらでもない 2:あまり思わない 1:思わない」の5件法 (** P<.01 * P<.05)

3-2 情報を正しく安全に利用する知恵を必要とされない教材

道徳科の授業で情報モラルに関する題材を扱っても、その題材が情報を正しく安全に利用する知恵を必要とされない場合、事前に情報モラルの授業を実施しなくても道徳科の授業は成立すると予想される。そこで、小学校6年生(35名)の道徳科の実証授業で検証することにした。授業前に道徳科の題材に含まれるケータイの危険性や安全な使い方の授業を実施した。道徳科では資料名「父の手紙」(広島県教科用図書販売)を用いて家族に対する感謝の心や敬愛の念について考えさせた。

授業後、実証授業の観察者は、子供が主人公の状況や心情を理解して考え、発表できていたと判断していた。子供の発話やワークシートの記述の分析から、主人公の状況や心情を理解できない子供が1名いたが、「主人公がどうしても父親に思いを伝えたい」という心情が理解できなかったのであり、情報モラルに関するケータイの使用や使い方が理解を妨げる原因ではなかった。

筆者らは、これまで「正直、誠実」「節度、節制」「親切、思いやり」の事例を多く収集してきており、今回「家族愛」の事例を収集した。「家族愛」の場合、「正直、誠実」「節度、節制」「親切、思いやり」と異なり、男女による考え方の差異が予想された。差異は意識調査で調べることにし、質問紙法で、「4:思う 3:

少し思う 2:あまり思わない 1:思わない」の4件法で回答させた。意識調査の質問1~16は「家族愛」、17は自尊感情、18~19は開放性、20~21は社会志向性、22は信頼感、23は公共心、24は共感に関する質問とした。事前調査と事後調査の質問1~24の得点平均、性別・ケータイ所有の有無・ケータイで連絡を取り合った経験の有無による得点平均を表8と表9に示す。

質問内容	
1. 家族が好き	13.家族の好きなものを知っている
2. 家族と一緒に遊ぶ	14.家族に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる
3. 家族とケンカをしても仲直りができる	15.家族に「ごめんなさい」と素直に謝ることができる
4. 家のお手伝いをする	16.家族に悩みを相談できる
5. 家族と毎日お話ををする	17.自分は友達から信頼されている(自尊感情)
6. 家族にあいさつをする	18.学校生活が楽しい(開放性)
7. 家族が困っていたとき助けてあげる	19.どんな人ともうまくつきあえる(開放性)
8. 自分が困っているとき、家族に助けを求める	20.相手の気持ちを考えて話している(社会志向性)
9. 家族に良いことがあったとき自分も一緒に喜ぶ	21.学級の約束を守っている(社会志向性)
10.家族を心配したことはある	22.自分自身のことが信頼できる(信頼感)
11.家族の笑顔が好き	23.人の物を大切にできる(公共心)
12.家族が大切	24.私のことを周りの人が理解している(共感)

表8 事前調査の全体と性別、ケータイ所有、連絡経験による得点平均(標準偏差)

質問	全体				性別			ケータイを持っているか			ケータイで連絡を取り合ったことがあるか		
	35(人)	男	女	P	はい	いいえ	P	ある	ない	P			
1	3.51 (0.78)	3.26 (0.88)	3.7 (0.66)	n.s.	3.75 (0.71)	3.44 (0.78)	n.s.	3.73 (0.54)	> 3.08 (0.83)	**			
2	2.94 (0.87)	2.80 (0.77)	3.05 (0.94)	n.s.	3.00 (0.76)	2.92 (0.78)	n.s.	3.04 (0.88)	2.75 (0.83)	n.s.			
3	3.28 (0.83)	3.00 (0.85)	3.50 (0.76)	n.s.	3.12 (0.99)	3.33 (0.78)	n.s.	3.34 (0.83)	3.16 (0.83)	n.s.			
4	3.20 (0.83)	3.06 (0.96)	3.30 (0.73)	n.s.	3.25 (0.71)	3.18 (0.78)	n.s.	3.17 (0.78)	3.25 (0.83)	n.s.			
5	3.65 (0.64)	3.60 (0.51)	3.70 (0.73)	n.s.	3.75 (0.71)	3.62 (0.78)	n.s.	3.73 (0.62)	3.50 (0.83)	n.s.			
6	3.17 (1.01)	2.66 (1.18)	< 3.55 (0.69)	**	3.50 (0.53)	3.07 (0.78)	n.s.	3.47 (0.79)	> 2.58 (0.83)	**			
7	3.25 (0.82)	2.93 (0.96)	< 3.50 (0.61)	*	3.37 (1.06)	3.22 (0.78)	n.s.	3.21 (0.85)	3.33 (0.83)	n.s.			
8	3.31 (0.90)	3.13 (0.83)	3.45 (0.94)	n.s.	3.62 (0.52)	3.22 (0.78)	n.s.	3.30 (0.93)	3.33 (0.83)	n.s.			
9	3.25 (0.95)	3.00 (1.07)	3.45 (0.83)	n.s.	3.50 (1.07)	3.18 (0.78)	n.s.	3.26 (1.05)	3.25 (0.83)	n.s.			
10	3.48 (0.85)	3.00 (1.07)	< 3.85 (0.37)	**	3.62 (1.06)	3.44 (0.78)	n.s.	3.65 (0.78)	3.16 (0.83)	n.s.			
11	3.08 (1.04)	2.53 (1.13)	< 3.50 (0.76)	**	3.12 (1.36)	3.07 (0.78)	n.s.	3.17 (1.07)	2.91 (0.83)	n.s.			
12	3.68 (0.63)	3.53 (0.74)	3.80 (0.52)	n.s.	3.87 (0.35)	3.62 (0.78)	n.s.	3.86 (0.34)	> 3.33 (0.83)	**			
13	3.00 (1.11)	2.73 (1.16)	3.20 (1.06)	n.s.	3.12 (1.25)	2.96 (0.78)	n.s.	3.26 (1.01)	2.50 (0.83)	n.s.			
14	3.28 (0.79)	3.26 (0.96)	3.30 (0.66)	n.s.	3.00 (1.07)	3.37 (0.78)	n.s.	3.39 (0.78)	3.08 (0.83)	n.s.			
15	2.77 (0.94)	2.53 (1.06)	2.95 (0.83)	n.s.	3.12 (0.83)	2.66 (0.78)	n.s.	2.82 (0.98)	2.66 (0.87)	n.s.			
16	3.08 (1.01)	3.00 (1.00)	3.15 (1.04)	n.s.	3.25 (0.89)	3.03 (0.78)	n.s.	3.04 (1.02)	3.16 (0.83)	n.s.			
17	2.80 (1.02)	2.80 (1.01)	2.80 (1.06)	n.s.	2.12 (1.13)	< 3.00 (0.92)	*	2.47 (1.08)	< 3.41 (0.87)	**			
18	3.25 (0.85)	3.00 (1.00)	3.45 (0.69)	n.s.	3.00 (1.07)	3.33 (0.78)	n.s.	3.21 (0.95)	3.33 (0.83)	n.s.			
19	2.74 (1.04)	2.86 (0.99)	2.65 (1.09)	n.s.	2.62 (1.19)	2.77 (0.92)	n.s.	2.60 (1.16)	3.00 (0.87)	n.s.			
20	3.25 (0.66)	3.26 (0.70)	3.25 (0.64)	n.s.	3.25 (0.71)	3.25 (0.78)	n.s.	3.17 (0.72)	3.41 (0.83)	n.s.			
21	3.57 (0.65)	3.46 (0.74)	3.65 (0.59)	n.s.	3.62 (0.52)	3.55 (0.78)	n.s.	3.47 (0.73)	3.75 (0.83)	n.s.			
22	2.77 (0.97)	2.73 (1.10)	2.80 (0.89)	n.s.	2.87 (0.83)	2.74 (0.92)	n.s.	2.60 (1.03)	3.08 (0.87)	n.s.			
23	3.57 (0.81)	3.26 (1.03)	3.80 (0.52)	n.s.	3.62 (0.74)	3.55 (0.78)	n.s.	3.56 (0.73)	3.58 (0.83)	n.s.			
24	2.88 (1.05)	2.80 (1.21)	2.95 (0.94)	n.s.	2.62 (1.06)	2.96 (0.92)	n.s.	2.65 (1.11)	3.33 (0.87)	n.s.			

(** P<.01 * P<.05)

表9 事前事後(全体)の比較, 事後調査の性別, ケータイ所有, 連絡経験による得点平均(標準偏差)

質問	全体		性別(事後)		ケータイを持っているか(事後)			ケータイで連絡を取り合ったことがあるか(事後)				
	事前	事後	P	男	女	P	はい	いいえ	P	ある	ない	P
	35(人)	35		15	20		8	27		23	12	
1	3.51 (0.78)	3.40 (0.94)	n.s.	3.14 (0.95)	< 3.75 (0.44)	*	3.85 (0.38)	3.40 (0.8)	n.s.	3.52 (0.77)	3.44 (0.73)	n.s.
2	2.94 (0.87)	2.91 (1.09)	n.s.	2.78 (0.70)	3.15 (1.14)	n.s.	3.71 (0.49)	< 2.81 (1.00)	*	3.08 (0.95)	2.77 (1.09)	n.s.
3	3.28 (0.82)	3.17 (1.01)	n.s.	2.85 (1.03)	< 3.55 (-0.60)	*	3.42 (0.79)	3.22 (0.89)	n.s.	3.32 (0.85)	3.11 (0.93)	n.s.
4	3.20 (0.83)	3.11 (0.93)	n.s.	3.00 (0.68)	3.35 (0.81)	n.s.	3.42 (0.79)	3.14 (0.77)	n.s.	3.24 (0.72)	3.11 (0.93)	n.s.
5	3.65 (0.63)	3.51 (0.98)	n.s.	3.42 (0.76)	3.75 (0.79)	n.s.	3.85 (0.38)	3.55 (0.85)	n.s.	3.72 (0.68)	3.33 (1.00)	n.s.
6	3.17 (1.01)	2.88 (1.13)	n.s.	2.42 (0.94)	< 3.35 (0.93)	**	3.57 (0.79)	2.81 (1.04)	n.s.	3.04 (0.93)	2.77 (1.3)	n.s.
7	3.25 (0.81)	3.22 (1.00)	n.s.	2.92 (1.00)	< 3.60 (0.6)	*	3.57 (0.79)	3.25 (0.86)	n.s.	3.24 (0.93)	3.55 (0.53)	n.s.
8	3.31 (0.90)	3.02 (1.04)	n.s.	2.71 (0.73)	< 3.40 (0.94)	*	3.28 (0.76)	3.07 (0.96)	n.s.	3.2 (0.91)	2.88 (0.93)	n.s.
9	3.25 (0.95)	3.34 (0.99)	n.s.	3.28 (0.83)	3.55 (0.83)	n.s.	3.57 (0.79)	3.40 (0.84)	n.s.	3.44 (0.82)	3.44 (0.88)	n.s.
10	3.48 (0.85)	3.42 (0.94)	n.s.	3.21 (0.89)	< 3.75 (0.55)	*	3.71 (0.76)	3.48 (0.75)	n.s.	3.52 (0.77)	3.55 (0.73)	n.s.
11	3.08 (1.03)	3.17 (1.01)	n.s.	3.07 (-1.00)	3.40 (0.75)	n.s.	3.57 (0.79)	3.18 (0.88)	n.s.	3.32 (0.85)	3.11 (0.93)	n.s.
12	3.68 (0.63)	3.51 (0.81)	n.s.	3.42 (0.51)	3.75 (0.55)	n.s.	3.85 (0.38)	3.55 (0.58)	n.s.	3.64 (0.49)	3.55 (0.73)	n.s.
13	3.00 (1.11)	3.00 (1.18)	n.s.	2.78 (1.19)	3.30 (0.98)	n.s.	3.00 (1.00)	3.11 (1.12)	n.s.	3.08 (1.04)	3.11 (1.27)	n.s.
14	3.28 (0.78)	3.22 (0.94)	n.s.	3.07 (0.92)	3.50 (0.61)	n.s.	3.42 (0.79)	3.29 (0.78)	n.s.	3.32 (0.75)	3.33 (0.87)	n.s.
15	2.77 (0.94)	2.85 (1.06)	n.s.	2.57 (1.09)	3.20 (0.77)	n.s.	3.28 (1.11)	2.85 (0.91)	n.s.	2.84 (0.9)	3.22 (1.09)	n.s.
16	3.08 (1.01)	2.80 (1.20)	n.s.	2.64 (1.28)	3.05 (-1.00)	n.s.	3.00 (1.15)	2.85 (1.13)	n.s.	2.92 (1.08)	2.77 (1.30)	n.s.
17	2.80 (1.02)	2.57 (1.03)	n.s.	2.78 (-0.80)	2.55 (1.05)	n.s.	2.00 (1.15)	< 2.81 (0.83)	*	2.48 (0.96)	3.11 (0.78)	n.s.
18	3.25 (0.85)	3.11 (1.10)	n.s.	3.14 (0.95)	3.25 (1.02)	n.s.	2.57 (1.27)	3.37 (0.84)	n.s.	3.04 (1.02)	3.66 (0.71)	n.s.
19	2.74 (1.03)	2.42 (1.09)	n.s.	2.50 (0.94)	2.50 (1.10)	n.s.	2.14 (1.21)	2.59 (0.97)	n.s.	2.32 (1.07)	3.00 (0.71)	n.s.
20	3.25 (0.65)	3.08 (1.01)	n.s.	2.92 (0.83)	3.35 (0.88)	n.s.	3.42 (0.79)	3.11 (0.89)	n.s.	3.08 (0.86)	3.44 (0.88)	n.s.
21	3.57 (0.65)	3.48 (0.91)	n.s.	3.57 (0.65)	3.60 (0.75)	n.s.	3.85 (0.38)	3.51 (0.75)	n.s.	3.60 (0.71)	3.55 (0.73)	n.s.
22	2.77 (0.97)	2.77 (1.05)	n.s.	2.78 (1.05)	2.90 (0.91)	n.s.	3.14 (0.69)	2.77 (1.01)	n.s.	2.68 (0.99)	3.33 (0.71)	n.s.
23	3.57 (0.81)	3.60 (0.84)	n.s.	3.64 (0.74)	3.75 (0.44)	n.s.	3.71 (0.49)	3.70 (0.61)	n.s.	3.76 (0.52)	3.55 (0.73)	n.s.
24	2.88 (1.05)	2.60 (1.14)	n.s.	2.71 (1.14)	2.65 (1.04)	n.s.	2.14 (1.07)	2.81 (1.04)	n.s.	2.6 (1.04)	2.88 (1.17)	n.s.

(** P<.01 * P<.05)

男女での有意差がみられたのは、いずれも「家族愛」に関する質問で、「6. 家族にあいさつをする」「7. 家族が困っていたとき助けてあげる」「10. 家族を心配したことはある」「11. 家族の笑顔が好き」であり、女子の得点平均が男子より有意に高かった。ケータイ所持の有無による有意差がみられたのは、自尊感情にあたる「17. 自分は友達から信頼されている」であり、ケータイを所持していない子供の得点平均が所持している子供より有意に高かった。ケータイで連絡を取り合った経験の有無による有意差がみられたのは、質問1, 6, 12, 17である。「家族愛」に関する質問の「1. 家族が好き」「6. 家族にあいさつをする」「12. 家族が大切」は、ケータイで連絡を取り合ったことがある子供の得点平均が連絡を取り合ったことがない子供より有意に高かった。事前と事後の得点平均に有意な差はみられなかった。これは、もともと家族思いの子供が多く得点平均が4.00に近いものが多かったことと関係があるものと思われる。得点平均が2.9と低い「2. 家族と一緒に遊ぶ」は子供の実践意欲だけでは実現できない内容を含んでおり、得点平均が2.8と低い「1. 家族に『ごめんなさい』と素直に謝ることができる」は本時の題材で扱った内容とは異なっていたことが原因と考えられた。

今回用いた意識調査は、内容項目による差が大きいことが示唆されたため、因子分析を行った。表10に示すとおり、第1因子と第2因子として取り出されたのは、「愛情を持って家族と接すること」と「家族間のあたたかな人間的なつながり」に関する質問であった。「家族愛」以外の内容項目に関する質問は、第3因子として取り出された。因子間相関では、第1因子と第2因子の間には強い相関がみられたが、第3因子と第1因子や第2因子の間には、弱い相関しか見られなかった。

表 10 因子分析結果と因子間相関

	I	II	III
1. 家族が好き	.898	.293	.079
12. 家族が大切	.814	.354	.018
10. 家族を心配したことはある	.702	.320	-.041
11. 家族の笑顔が好き	.615	.499	.156
13. 家族の好きなものを知っている	.598	.173	.161
14. 家族に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることができる	.589	.164	-.005
6. 家族にあいさつをする	.513	.345	-.024
8. 自分が困っているとき、家族に助けを求める	.251	.811	.154
2. 家族と一緒に遊ぶ	.305	.734	.093
16. 家族に悩みを相談できる	.287	.685	.304
3. 家族とケンカをしても仲直りができる	.432	.648	.132
9. 家族に良いことがあったとき自分も一緒に喜び	.396	.633	.146
7. 家族が困っていたとき助けてあげる	.424	.593	.175
5. 家族と毎日お話をする	.278	.568	.171
24. 私のことを周りの人が理解している	.008	.377	.841
17. 自分は友達から信頼されている	.031	.156	.807
21. 学級の約束を守っている	-.022	.209	.795
19. どんな人ともうまくつきあえる	-.087	-.081	.742
22. 自分自身のことが信頼できる	.130	.144	.688
23. 人の物を大切にできる	.232	.008	.613
20. 相手の気持ちを考えて話している	-.163	.353	.547
18. 学校生活が楽しい	.334	.069	.503
	I	II	III
	I	-.715**	.213
	II	-	.395*
	III		-

注) 最尤法・バリマックス回転

(** $P < .01$ * $P < .05$)

「家族愛」と他の尺度との相関係数を表11に示す。「家族愛」に関する質問と強い相関がみられた質問はなく、中程度の相関がみられたのは、社会志向性、信頼感、公共心、共感であった。「家族愛」に関する質問と強い相関も中程度の相関もみられなかったのは自尊感情、開放性とであった。「家族愛」に関する質問と中

表 11 「家族愛」の質問と他の尺度との相関係数

「家族愛」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
(自尊感情)																
17.自分は友達から信頼されている	.132	.152	.244	.014	.207	.034	.239	.262	.297	.115	.210	.036	.181	.182	.073	.358*
(開放性)																
18.学校生活が楽しい	.326	.179	.353*	-.075	.329	.050	.198	.160	.388*	.349*	.306	.319	.311	.238	.112	.281
19.どんな人ともうまくつきあえる	-.013	.016	-.015	-.143	.173	-.041	-.093	.026	.039	-.253	-.006	-.082	.051	-.051	.209	.162
(社会志向性)																
20.相手の気持ちを考えて話している	.021	.283	.240	.011	.356*	.108	.092	.406*	.079	-.124	.096	.059	0.00	-.089	.240	.409*
21.学級の約束を守っている	.099	.265	.233	.000	.271	.025	.212	.285	.182	.015	.272	.092	.202	-.041	.409*	.324
(信頼感)																
22.自分自身のことが信頼できる	.237	.227	.157	-.015	.154	-.108	.409*	.252	.225	.031	.369*	.119	.272	.049	.230	.409*
(公共心)																
23.人の物を大切にできる	.218	.047	.275	.217	.161	.198	.215	.109	.033	.266	.322	.245	.227	.105	.558**	.296
(共感)																
24.私のことを周りの人が理解している	.181	.346*	.344*	.060	.334*	.157	.446**	.443**	.384*	.097	.278	.166	.176	.041	.389*	.508**

(** $p < .01$ * $p < .05$)

程度の相関がみられたのは社会志向性の質問 20 と質問 21 であり、「家族愛」の質問 8, 質問, 質問 15, 質問 16 と中程度の相関がみられた。信頼感の「22. 自分自身のことが信頼できる」も「家族愛」の「7. 家族が困っていたとき助けてあげる」「16. 家族に悩みを相談できる」と中程度の相関がみられた。共感の「24. 私のことを周りの人が理解している」と「家族愛」の「7. 家族が困っていたとき助けてあげる」「8. 自分が困っているとき、家族に助けを求める」「16. 家族に悩みを相談できる」と中程度の相関がみられた。

「家族愛」についての意識調査と、これまで収集してきた「正直, 誠実」「節度, 節制」「親切, 思いやり」の意識調査を比べると、「家族愛」は「正直, 誠実」「節度, 節制」「親切, 思いやり」にみられなかった男女による得点平均の有意差がみられた。性別による有意差がみられるものの、「道徳科の授業で情報モラルに関する題材を扱っても、その題材が情報を正しく安全に利用する知恵を必要とされない場合、事前に情報モラルの授業を実施しなくても道徳科の授業は成立する」ことに影響を与えないと思われた。

4 おわりに

今回の調査では、実証授業を実施し、情報モラルに関する題材を扱った道徳科の授業の問題点を明らかにした。今回収集したものは、情報モラルの題材を扱う道徳の年間指導計画、内容項目に係る行動調査と意識調査、情報モラルに関する題材を扱う特別の教科道徳の指導案、動画教材・読み物教材、関連する情報モラルの授業の年間指導計画、ループリック（ワークシート等）、授業者と観察者からの聞き取りである。

道徳科の授業で使う情報モラルに関する題材には、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材と必要とされない教材があり、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材の場合、道徳科の授業を行う前に情報モラルの授業を実施しておく必要があると予想された。そこで、情報モラルに関する題材を扱う道徳科の授業を実施し、27 事例を収集した。情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材を使った 16 事例のうち、7 事例は事前に情報モラルの授業を実施しない授業であり、9 事例は事前に情報モラルの授業を実施した授業であった。事前に情報モラルの授業を実施しない 7 事例では、本時の情報モラルに関する知識の不足している子供がいることが分かった。知識の不足する子供の中には、読み物資料に記載されたゲームにのめりこんでしまうネットゲームの仕組みや SNS によるトラブル等の状況の理解できず、読み物資料に描かれた登場人物の行動や心情の理解が不十分な子供が存在した。ある程度情報モラルに関する知識を有していると思われた中学校での実証授業においても情報モラルに関する知識不足が原因で読み物資料に描かれた登場人物の行動や心情の理解が不十分な子供が存在することが分かった。

事前に情報モラルの授業を実施した 9 事例では、情報モラルに関する知識を得ていたため、読み物資料に描かれた登場人物の行動や心情の理解ができない子供はいなかった。情報モラルの授業では知識・理解が高まり、道徳科の授業では心の領域である構えについて考える授業が成立していた。また、道徳科の授業の直前に情報モラルの授業を実施した場合、道徳科の時間に、情報モラルの授業で学習した内容に触れた発話が見られ、子供の意識が連続していることも明らかになった。

情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材を使った 11 事例では、実証授業のビデオ記録やワークシートの分析から教材に書かれた状況が理解でき、資料の範読後、一人一人が登場人物の気持ちを考え、自己をみつめる展開となった。このことから、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされない教材を使った場合、事前に情報モラルの授業を行う必要がないことが確認された。

ただし、玉田(2004)の「道徳的規範知識の低い子供」は 1~2 名と少数ではあったが、どの授業にも存在した。

本研究では、収集した事例を、情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる教材と必要とされない教材を用いた事例に分類し、事前に情報モラルの授業を実施した事例としない事例とを比較した結果、道徳科で情報を正しく安全に利用する知恵が必要とされる情報モラルに関する題材を扱う場合、子供の実態を調査し、情報モラルに関する知識が不足している時には事前に情報モラルの授業を実施しておく必要があることが明らかになった。

これまで筆者らは、道徳科の内容項目「正直, 誠実」「節度, 節制」「親切, 思いやり」の事例を収集してきたが、今回の調査では「家族愛」の事例を収集した。「正直, 誠実」「節度, 節制」「親切, 思いやり」と異なり、意識調査から回答に男女差は見られたが、このことが情報モラルに関する題材を使った道徳科の授業の分析に影響を及ぼしていることはないと思われた。

なお、国立青少年教育振興機構調査(2016)は、自己肯定感、道徳観・正義感等の多寡と「スマホ依存度」

にはほとんど関係ないことを報告しており、筆者らの今回の調査においても同様の結果となっていた。

また、道徳科で情報モラルに関する題材を扱う授業の内容項目として「正直・誠実」「節度・節制」「思いやり」が多く取り上げられている。これらの内容項目は「A 主として自分自身に関すること」と「B 主として人とかかわりに関すること」にあたる。情報モラル事例判断について玉田(2004)は、自分に関することは「思慮」「節度」の2因子構造、他人とかかわりに関することでは「思いやり・礼儀」、社会とかかわりに関することでは、「正義・規範」との1因子構造である述べている。今回の調査ではこれらのことは確認できなかった。今後、事例収集を継続し、確認する予定である。

本研究に協力いただいた11校の小中学校の皆様、研究を支援いただいた電気通信普及財団に感謝申し上げます。

【参考文献】

- 国立教育政策研究所(2011)情報モラル指導カリキュラムチェックリスト
村井実(2010)道徳は教えられるか, 国土社
有光興記,藤澤文(2015)モラルの心理学: 理論・研究・道徳教育の実践
文部科学省(2015)小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編
玉田和恵(2004)道徳的規範意識・情報技術の知識・合理的判断の知識による情報モラル指導法の開発と評価, 東京工業大学リサーチポジット
玉田和恵,松田稔樹(2012)教師と生徒が考える情報モラル教育改善のための3要因,日本教育工学会研究報告集, 2012-12-15,pp.203-210
内閣府(2016)平成27年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果
国立青少年教育振興機構(2016)青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年度調査)
宮川洋一, 森山潤(2011)道徳的規範意識と情報モラルに対する意識の関係—中学校学習指導要領の解説「総則編」に示された情報モラルの考え方に基づいて—, 日本教育工学会論文誌 35(1), pp.73-82

〈発表資料〉

題名	掲載誌・学会名等	発表年月
特別の教科道徳で情報モラルに関する題材を扱う場合の課題と対策	日本教育情報学会第32回年会論文集 pp. 314-315	2016/8
中学校特別な教科道徳で情報モラルに関する題材を扱う際の課題	日本教育工学会第32回年会論文集 pp. 193-194	2016/9